自然環境の保護

密猟対策

希少な固有種の動植物の密猟や採集は、やんばるの生物多様性環境を重大な脅威にさらします。最も頻繁に標的となるのは、多くの場合、最も脆弱な種の野生生物です；密猟によってその種が絶滅の危機に瀕したり、最悪の場合は絶滅してしまったりする可能性があります。法律では特定の種を保護するために罰金や懲役が課されていますが、それでも密猟や違法採集は森林の生態バランスに対する絶え間ない脅威となっています。環境省、林野庁、国頭村、大宜味村、東村の職員、警察、その他の関連組織や地域住民は、定期的に道路をパトロールし、全ての来訪者にやんばる固有の環境を保護・保全する取り組みへの協力を呼びかけています。

ロードキル対策

やんばるの林道は多くの固有種や希少動物の生息地を通るため、自動車事故による野生動物の死亡を最小限に抑える取り組みが進められています。

日本唯一の飛べない鳥で絶滅危惧種のヤンバルクイナは早朝と夕方に、夜行性のリュウキュウテナガネズミは夜間に事故が多発します。一部の地域では、動物が道を横断するのを減らすためにフェンスや地下道が建設されています。こうした事故が多発する現場にはドライバーへ

の注意喚起の標識が設置され、また地域住民や観光客への啓発活動も行われています。

侵入種の侵入阻止

やんばるでは侵入種の動植物の侵入が生態系のバランスを崩しており、問題となっています。例えば、20 世紀初頭にネズミやヘビを防除するために沖縄に導入されたマングースを排除するために、多大な努力がなされてきました；マングースはむしろ、飛べないヤンバルクイナなど、やんばるの在来動植物に大被害を与えています。環境省と沖縄県は「マングースバスターズ」と呼ばれる専門家団体と協力して、柵やわなを使い、やんばる地域からマングースを駆除するための活動を行っています。野良猫を排除し、飼い猫の飼い方を管理する計画も施行されています。壊滅的な被害をもたらす侵入種の植物は、車両や人々の衣服、その他の手段によって侵入し、急速に広がる可能性があります。 ツルヒヨドリ(*Mikania micrantha*)やナガエツルノゲイトウ(*Alternanthera philoxeroides*)など、こうした侵入種の最悪の例の一部については、早期発見と防除を改善する取り組みが行われています。

希少種の保護

希少種の密猟や採集は、個人使用のための収集から大規模な商業活動まで多岐にわたります。密猟の証拠は、やんばるだけでなくホテルや空港、ペットショップ、さらには海外でも発見されています。密猟や採集を減らすための対策としては、道路パトロールによる監視の強化、

各種の個体数のモニタリング、パンフレットや広報資料による啓発、地元ボランティアとの協力

などが挙げられます。